

令和元年度第3回石狩市社会福祉審議会 会議録

- 日 時 令和2年2月21日（金） 10時00分～11時30分
- 場 所 石狩市役所 5階 第1委員会室
- 出席者【審議会委員】
鈴木幸雄会長・北原委員・鈴木いずみ委員・長濱委員・若狭委員
【事務局】
大塚保健福祉部長・宮野福祉総務課長・富木企画総務担当主査
- 欠席者 岡田委員、金子委員、松原委員
- 傍聴者 なし
- 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 審 議
(1) 第4次石狩市地域福祉計画の策定について
 - 4 そ の 他
 - 5 閉 会
- 配付資料 別添のとおり

■会議内容

1 開会

○宮野課長

本日はお忙しい中、ご出席をいただきありがとうございます。

それでは定刻となりましたので、ただいまから「令和元年度第3回石狩市社会福祉審議会」を開催いたします。尚、岡田委員、松原委員、金子委員の3名の委員の皆様は欠席ということで事前にご連絡をいただいております。

開催にあたり、本日の資料を確認させていただきます。資料は、「会議次第」のほか「資料1 第4次石狩市地域福祉計画の策定について寄せられた意見の検討結果」となっております。資料はお手元にご覧いただけますでしょうか。不足している資料がありましたら、事務局まで申し出願います。

続きまして、会議次第2、会長あいさつでございます。鈴木会長、よろしくお願いいたします。

2 会長あいさつ

○鈴木会長

おはようございます。新型コロナウイルスが蔓延しそうな雰囲気ですね。私たちに何かできる防衛手段といえば手洗い・うがい・消毒・マスクくらいしかないのかなと思いつつ、それをやりながら少しでも未然に防ぐことが大切なのかなと思います。できるだけ蔓延しないようにしないといけないと思います。

本日は第4次地域福祉計画の審議をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○宮野課長

鈴木会長どうもありがとうございました。これより以後の議事進行につきましては、会長にお願いしたいと存じますが、議事に入ります前に私から報告させていただきます。

本日の審議会は、石狩市社会福祉審議会条例第6条に規定する委員の過半数が出席され、本審議会が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、この後の進行につきましては鈴木会長にお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 審議

○鈴木会長

それでは審議に入りたいと思います。諮問案件の審議がございますので、会議録署名委員の指名をさせていただきます。若狭委員と鈴木いずみ委員のお二人にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議で委員のみなさまからの意見が出尽くすようでありましたら、第4次石狩市地域福祉計画の審議を終了し、答申を行いたいと考えております。

それでは、審議に入ります。

「第4次石狩市地域福祉計画の策定について」を議題といたします。

はじめに、事務局から提出されております資料について、説明をお願い致します。

○宮野課長

それでは私から資料1についてご説明させていただきます。

内容と致しましては、第4次石狩市地域福祉計画の策定について、令和2年1月13日から令和2年2月13日までの間パブリックコメントを実施致しました。このパブリックコメントを実施致しまして、お一人の方から内容としては2点の意見が寄せられたところでございます。意見への対応と致しましては、2点とも計画の中身に大きく修正等を必要とするような内容ではございませんでしたことから、原案には盛り込まない形になりますが、今後の計画を遂行していくにあたっての参考事項とする、として内容を検討した回答としております。当課と関係部局において内容等検討致しまして検討結果としているところでございます。

次のページに意見の要旨、検討した結果を記載しております。

意見の1点目としましては、地域包括ケアシステムというものがよく知られていないのではないか、ということで市民の方に広く周知するべきというご意見でした。

もう1点目が、石狩市の単身世帯のうち65歳以上の独居老人がどの程度いるのか統計的な数値を示していくことも必要ではないのかというご意見でした。

この2点について検討致しまして、1点目につきましては、高齢者人口が増加し地域包括ケアシステムをこれから機能させていくには、その制度の仕組みを広くわかりやすい周知に努めていきたいと思っております。

また2点目につきましては、独居老人の65歳以上の方の数値というご意見なのですが、実際には住民基本台帳に住民登録をいただいているのですが、住民基本台帳上では把握することができませんが、実際その中身を見ても住所はそこに置いても現実にはそこに住んでいない方がいたり、住民登録を分けているが実際にはお子様の世帯と一緒に住んでいるという現状もありますので、統計的な数字を正確に把握してお示するという事は難しい状況となります。ただ、地域の状況を把握して独居の方たちの見守りをしていくことは大変重要ですので、市や社会福祉協議会、地域の住民の皆様、また民生委員の皆様と協力しながら単身世帯の高齢者の把握に努めていきたいという検討内容としております。資料の説明は以上です。

○鈴木会長

ありがとうございました。ただいま説明がありましたが、これより質疑に入りたいと思っております。

パブリックコメントの質疑のほか、計画全般についての質疑も合わせて行いたいと思っております。質疑はございませんか。

○若狭委員

よろしいでしょうか。2つ目の意見に関連してなのですが今回のウイルスもそうですが、住民に対してどのように意識啓発を図っていくのかというのは重要なことだと思っていて、私もこの統計データは、高齢者福祉が専門なのでよく国のレベルのものをよく見ているのですが65歳以上の方が一人でも属する世帯のうち単身世帯と二人世帯、全部ではないですけれども二人世帯の場合は老々が考えられるのですが。それが全世帯の55%くらいですか。ですから結構インパクトが強いんですね。独居老人と二人の世帯が全世帯の半数を超えているという。そうすると2分の1ですから、隣近所を見渡せば大体お年寄りがいるという全国平均です。それを石狩に集約す

ると、地域包括ケアシステムとも関連するのですが、冬期間なかなか外出しないお年寄りですとか、普段外出しているのに最近目にしないですとか、あの家人影が見えないがどうだろうとか、何気ないことで構わないのですが、そういった意識をより多くの方に持っていただくことが大事だと思います。

普段学生と接していて気付くのですが、例えば今日は天気が良いですね。ここ何日か気温が上がっていて、服装を選ぶ時にも私たちは天気という情報を得て、その日の情報を得たり準備をする物を考えたりするのですが若い人は意外と考えないですね。天気予報を見ない、新聞も見ない、ではどこから情報を得るのか、スマホです。スマホで得る情報は自分が欲する情報だけです。そういう意味では、世の中で情報を得る人の割と関心の低い層にインパクトのある情報を与えていくのが結構大事ななと思っています。一人ひとりが何となく意識をするということで、結果的に福祉の意識に繋がるとか、こんなことならできるけどというようなネットワークのとっかかりに繋げていくという意味合いでは、きめ細かく恒常的に出来れば、打ち上げ花火ではなく繰り返し繰り返し色々な情報を提供していくということが重要ななと考えています。その中の一つに高齢者の世帯の状況も含まれるのかなと思います。

そういったものを発信しておくことによって、意識のある住民側が自ら何かを発信したり、行動を起こしたり、行政の取り組みに協力を申し出たり、そういった繋がりも大事ななと思っています。

私は北広島市民ですが、実は北広島でも市民にそういった情報が入ってきているかということ、そうでもないのですね。ですから、この辺りは計画云々とは違うかもしれませんが、何らかの形で意見を反映させていただければありがたいと思います。

○宮野課長

ただいまご意見をいただきましたが、計画を作るにあたってワーキンググループの中で地域の皆様のご意見や、NPO、色々な団体の方にご意見をいただいた中でも、若い世代に次の成り手がいないということを目をみなさん仰います。そのとっかかりってどうしたら良いだろうということに皆さん、我々も含めて考えるのですが、その手立てが現状では思い浮かんでこないのですね。改めて考えてみますと、やはり若い世代に、高齢化が進んでいます。地域にこれだけ高齢者がいますよ、と情報を与えていく。それが何かきっかけみたいなことにつながっていくのかなと今のご意見をいただいて考えさせられました。得られる情報、提供できる情報というのは色々な部分からできると考えておりますので、ご意見を参考にそのような情報を広く市民の色々な世代に伝わるような工夫をしていきたいと考えております。

また民生委員や地域で活動をする皆さんには高齢者の名簿を渡しています。それぞれの地域に入ったときに、そこで生活されている単身世帯の高齢者の方やお二人世帯の方の現状を把握していただくために情報をお渡ししていますが、それを継続したいと考えております。以上です。

○鈴木会長

ありがとうございました。いわゆる独居あるいは二人世帯、その時の最大の問題は孤立化というのが一番の問題になってくるのでしょうか。それをできるだけ防ぐというか対策ということで地域福祉計画もあるのかなと感じます。

他にご質問はいかがでしょうか。なんでも結構ですのでご意見を出していただけたらと思いま

す。長濱委員いかがですか。

○長濱委員

私も石狩市内に住んでいますので、冬の方が除雪に出るので割とご近所の状態がわかるというか、見て何となくあの家はお年寄りだけだから手伝いに行かなくちゃとか、そのような情報は少しはわかるのですがなかなか一歩踏み込んでいくのは難しい問題だと思います。若い世代に手助けしてほしいというのは本当にそうですが、とっかかりが難しいなと思います。私自身は冬除雪して高校生や中学生が通るとなるべく挨拶など声をかけるようにしています。そんな小さな取り組みも少しは寄与していくのかなと思っています。

○鈴木会長

そうですね。鈴木さんは何かございますか。

○鈴木（い）委員

私も石狩市に住んでいますが、小さな単位で言えば町内会で若い世代が町内会では抜けていく、関わりが面倒でと。それとともに高齢の方と草むしりなどでお会いして話すのは、回覧板を回すのが夏はできるが冬になると大変だからと町内会を辞めていくという世帯が増えています。今うちの町内でも入会しているのが半分です。そうなってくると中間の層しか残らないです。回覧板の良いところは様子がわかり、声が掛け合えるということで、抜けてしまうと少しずつ交流が遠のいていくという点があります。今日のテーマをお聞きしながら町内会での回覧板などの在り方もシステムも少しずつ変えていかなければいけないのかなと感じました。逆に言えばどうやったら参加してもらえるのかということから考えていく必要があると思います。

これから石狩市でも空き家がたくさん、おそらく単身世帯で空いたものが増えるので、そういうものをこれからもっと若い人を取り込んでイベントをしたり等、なにかうまい仕掛け作りを今から始めないと、急速な高齢化に向かっている状態ですので手遅れにならないようにと願っています。

○鈴木会長

はい、北原委員は何かございますか。

○北原委員

今回このパブリックコメントを見て、意見をくださったのは一人ですよね。みんなで関わって地域福祉を進めていくのにみんなで目標を作ろう、計画を立てよう、こんな方向にみんなで歩もうというのが福祉計画の一番の目的だと思うのですが、気になっているのが、物を動かすのにどれだけ情報を共有出来ているか、情報をどれだけきちんと提供できているのか、地域の思いや動き等をどれだけ吸い上げることができるか。良い計画ができたときに計画自体がどれだけ多くの人にちゃんと情報提供していて、自分の立ち位置に結び付いていく情報の提供と集約の仕方が大事だなと感じます。

出来た後に前回も課題になったが、概要版が出来れば出したい。お金はかかるかもしれないが出来れば各世帯に渡る。と言いますのも、私も町内会をやっていますが、色々な情報が市からも来る、周囲の団体からも来る、それが回覧板で回る、それで回覧の回し方というものも私のところは24班あって24枚来るのだけれども回覧版に挟んで回すんです。うちの班は2、3日で回るんですよ。ところが2週間かかる場所もあるそうです。何が言いたいかということ情報の提供の

仕方、確かに全世界帯に情報を送ろうとしたら1枚ずつ取ってもらう方が一番伝わりやすいけれどそれも大変だし、計画が出来た時、どれだけ多くの方にちゃんと見ていただいて、いつもそばにあってすぐに手が届くような提供の仕方というのをしっかり詰めてもらって、できるだけ多くの人が触れることのできる情報の提供というのは大事だなと思います。

そして独居世帯というのがここにあります、町内会の班も24班あって自分は12班だけでも24戸あったが22戸になり、そのうちここ何年間かの間に独居世帯が5戸もあるんです。それも全て70歳以上です。地域の繋がりでは、4月1日に八幡小学校が石狩小学校と合併するのですが、子どもたちは除雪をしているとこちらが挨拶する前に挨拶をしてくる、こんな地域環境を大事にしてあげたいなと思います。では振り返ると町内会活動はどれだけ情報提供しているのかというのを感じます。今一番課題なのはどうやって町内会の事業計画をやっていくかが課題になっていて、運営する役員不足もそうなのですが。脇にそれでしたがせっかく出来た計画、これをどれだけ住民に届けるのか。町内会で配布するとか。民生委員さんも地域ですごく活動されてますよね。感心するくらい情報集約していて、独居世帯も把握されていて。町内会も把握していますよね。それから今年は国勢調査もありますよね。それも使える範囲だし、地域の中で独居老人が増えたという情報の集約の仕方地域に合った形にして、情報の集約と提供がどんな手立でどこまでやれるかが物事を動かす上で非常に大切だと感じております。良い計画であればあるほど伝える方法をしっかりやっつけていかなければならぬと感じました。

○鈴木会長

ありがとうございます。せっかくまとめたものを全市民に浸透させていくような、情報の伝え方がすごく大事だと思いますね。今情報の伝え方という意味でどのように伝えていこうとお考えですか？

○宮野課長

実際に冊子にすると何十ページにもなってしまいますので、ポイントを絞った概要版を見やすい形で市民の皆様目の触れるような示し方を工夫して考えていきたいと思っています。皆様からいただいたご意見はやはりその通りだと思います。我々が工夫して情報を伝達するのと情報を収集することがうまく流れていくように整えるというやり方をしていかななくてはならないと皆様のご意見をお聞きして改めて感じております。工夫して進めて参りたいと考えております。

○鈴木会長

はい、ありがとうございます。他に質問でもご意見でも何かございますか。若狭先生、付け加えることはありませんか。

○若狭委員

とても重要な議論ができていますと感じます。例えばソーシャルワーク、対人援助ですが、情報繋がりと言うと一番重要なポイントは誰が情報の集約点的な役割を果たすのか、収集と発信、情報のコントロールです。収集というのは基本的にアセスメントに繋がります。エリアの評価、町内会の評価、市全体の評価。発信というのはアセスメントに基づいてどこか改善点はないか、あるいはより良くしていくにはこういう情報が必要ではないかというものを発信して、それによって抱えている課題や問題を改善したり、あるいは問題の軽減を目指すというのがソーシャルワークなんです、おそらくコミュニティソーシャルワーク、あるいはコミュニティケアは地域にお

いてソーシャルワークを行うときも全く同じだと思います。ただエリアが広いので、情報の集約点をどのように配置するか、また機能させるかが非常に難しいと思います。たとえば出来た地域福祉計画を小学校という拠点をベースに子どもたちに伝えていくということは少なからずできますよね。中学校でもできると思います。一方で高齢者の集いや町内会などでもできると思います。ただ市全体となるとかなり拡散するのでコア、核になるようなところを1次レベルでのネットワークとして、それぞれの拠点から発信されたものがまた何らかの形で集約されてベースとなる人たちのところに戻ってくるような仕組みを作らなければならないと思います。従前に比べると大分変わっているが、ずっと同じ土俵で相撲を取っている様に感じます。行政、社会福祉協議会、福祉関係者、民生委員、そういったところで何となく感覚的に意識が同じような人たちだからすぐ納得がいくんですよ。ただ普段そういうところに入っていない人たちが実は大事で、そこにどのように発信してどのように集約していくかという仕組みを作っていく。そういう意味合いではスクールソーシャルワークも12年くらいですよね。そうすると先生達の意識も変わっているでしょうから小学校を拠点とすることもできるだろうし、色々な福祉の枠以外のところでネットワークなり、発信源・集約点を作っていくことが大事なのかなと感じています。ただ当然のことながらそれそのものをマネジメントする役割も極めて重要です。そこは役所のリーダーシップが問われるところかなと思います。なかなか難しいことではありますが、難しいからやれない、やらないではなく、どうやったらやれるかを考えるのが大切だと思います。

○鈴木会長

ありがとうございました。この地域福祉計画をひとつの材料にして、そこから開発していくんでしょうね。その開発のきっかけになればと感じます。他に何かございますか。

○大塚部長

今のコミュニティソーシャルワーカーの件ですが、今回の計画を作るにあたってそういう制度があって、岡田先生も是非とその部分を勧めていたことは重々承知しておりました。今回の計画ではその部分はそのままでは謳い込んではないのですが、その理由としては、今、若狭先生が仰ったように石狩の場合、社会福祉協議会を始めとした民生委員や地域の繋がりが非常に強い部分も一方でありまして、新たな制度をどんどん構築することによって新たな制度が浸透しにくいという難しさもありまして、今、生活支援コーディネーターという高齢者向けの核になる人が配置されているのですが、願わくはその人が同じような役目をさせていただいて、高齢者だけに限らず、若い人達の声を吸い上げていただくというのが理想というものもあって、国の動きも見ながら今回の計画には盛り込まなかったのです。先ほどのように情報の伝達や高齢化など非常にキーワードになると思い伺っていました。石狩の場合3人に1人が65歳以上という割合で、南北に80kmの縦に長い地形になっておりまして、上に行くほど急速に過疎化が進んでいます。上に行くと二人に一人が高齢者なのですが、意外と上に行くほど隣の人は何をやっているかをわかっているという部分があって、ただ単に高齢化が進んでいるから情報伝わりにくいという話では無くて、やはり昔からの声掛けなどが地域のコミュニティを保っていただいていると感じておりました。花川にいる民生委員さんの方でも、先ほど雪が降ったら雪はねもしていないで留守なのができるという話も出ましたが、そういった情報も数件寄せられておりまして、この家しばらく除雪もしていないけれどどうなっていますかと、市と社会福祉協議会と連携しながら情報連携を少しでも高め

るようにしたいと思っています。やはりこの計画のポイントというのは地域の繋がりというのがどうしても原点かなというのがありますので、今回パブリックコメントも1件という寂しい思いもありますが、計画ができた以上は概要版としてわかりやすい情報を、厚い情報は誰も読みませんのでわかりやすいポイントをまとめた情報をホームページにアップするなどという形で展開したいと考えております。以上です。

○鈴木会長

ありがとうございました。はい。それでは他の委員の方々はご意見ございませんか。なければ、「第4次石狩市地域福祉計画の策定について」の説明と質疑を終了し、答申の手続きに進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、答申の内容についてであります。答申書を本日の審議会の中で一から作成することは時間的にも困難であることを考慮しまして、事前に私と事務局において、答申書の原案を作っております。

この原案をもとに委員の皆さまからご意見をいただき、必要な修正や変更を加えて答申書とする方向で取り進めたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、答申書(案)を配付しますので、内容をご確認願います。

時間を取りますのでどうぞお目通し願います。

○長濱委員

すみません。3番の定期的な点検、評価を行いとありますが、これは具体的にはどういったことか教えていただきたいです。

○宮野課長

はい、この計画は5年計画になりますが、今回この計画を策定する前段で一定程度市民ニーズを把握した形で策定できれば良かったのですが、そこまで今回は出来きれてないものですから、中間くらいの時期にアンケート調査等を実施して、市民の皆様の福祉に対する意識、ニーズを把握しながら計画の修正が必要なのかどうかを計画期間の中間点でもう一度立ち返ってやっていきたいと考えております。

その中でアンケート調査ですとか、社会福祉協議会さんが行っている個別の事業もありますので、そのような実施状況などを点検して改善点等あれば修正等加えていきたいと考えております。

○鈴木会長

ありがとうございました。よろしいですか。

○長濱委員

はい。

○鈴木会長

他にはご意見はよろしいですか。

○北原委員

前に課題になっていた地域力の表現の仕方は、前に意見のあった形でまとめようとしていますか。

○大塚部長

はい、地域力を活かし、となりました。

○鈴木会長

他にご意見はございますか。

では特にご意見がないようですので、答申書につきましてはこの案のとおりとしたいと思います。

次ですが、答申書の取り扱いについてです。本日、ご確認をいただきましたので、後日、加藤市長へ答申書を渡したいと思いますが、答申書の提出については、私に一任していただければ幸いです。

(異議なし)

それでは、後日私から市長へ答申書を渡したいと思います。

4 その他

○鈴木会長

以上で諮問を受けました「第4次石狩市地域福祉計画の策定について」の審議はここで終了となります。委員のみなさま、3回に渡っての審議ありがとうございました。そのほか、事務局から何かございますか。

○大塚部長

はい、委員の皆様におかれましては、これまで熱心なご議論をいただきましてありがとうございました。今日の審議会が今任期最後の審議会になるだろうと思います。2年間ありがとうございました。いよいよ令和2年度からこの計画が始まります。先ほどの議論にも色々ございましたが、この計画を進めていく上でやはり地域の繋がりというものが一番の共生社会の実現に向けたポイントになると考えております。計画の理念でございます、「地域力を活かし、共に支え合うまち いしかり」これを目指し、社会福祉協議会の皆様や地域の皆様のお力をお借りしながら、安心安全な暮らしづくりに努めて参りたいと考えてございます。これまでのご審議、本当にありがとうございました。

4 閉会

○鈴木会長

それでは、これにて令和元年度第3回石狩市社会福祉審議会を閉会いたします。皆様、ありがとうございました。

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和2年3月12日

会 長 鈴 木 幸 雄 ⑩

署名委員 鈴 木 い ず み ⑩

署名委員 若 狭 重 克 ⑩